

磯崎新設計(1981-1985)

ロサンゼルスの中、広い道路を走っていると、一際目立つ建物がある。

外側は赤いインド砂岩とアボガドグリーンに塗られた壁に、屋根から飛び出たピラミッドがポストモダンな雰囲気を出している。また、内部は自然光に白い壁、フローリングという、アートへのリスペクトがうかがえる仕上げとなっている。

この写真だけを見ていると、色気違いのようにも見えなくない派手さがあるが、LAというアメリカ西海岸の気候と風土に調和し、落ち着きを見せる建築である。また、部分部分で浮遊感を漂わせ、建物全体が軽く、今にも動き出しそうである。

現代美術は、内でも外でも見せたいものなのかもしれない。外から見ていると外壁の色が濃く目立つ建築も、実は、外部に展示されたアートにしてみれば落ち着いて鑑賞できるバックスクリーンなのかもしれない。

また、高層ビルに囲まれた都市の中で、この中庭の広さと建築の創る空間は、人の心を和ませてくれているようにも感じられた。

